

湯沢峠遭難(時期不明)

山岳会で登山経験を積んだ50代女性。読図の練習で未整備のルートを計画。携帯電話を装備から外し登山するも道迷いに。3日後に救助された。



解説

湯沢峠～念仏平避難小屋間の未整備のルートに登山する計画を立てた。GPS機能を使用しないため携帯電話は装備から外し、登山届は提出済だった。

丸沼温泉から入山し、湯沢峠から南東に延びる尾根に入った。そのまま尾根伝いに進めば念仏平避難小屋に着く予定だったが、ほどなくして現在位置が分からなくなる。不用意に歩き回ると道迷いが深刻になると考え、ビバークを決意。

入山翌日、家族の通報を受け捜索を開始。出発から3日後に救助された。

山岳会で登山経験を積み、読図に自信がついてきたのだろうか？又は、次のステップへの練習だろうか？未整備ルートを単独で歩く計画をした。練習のため携帯電話を装備から外す判断は疑問である。単独での地図読み練習は如何にして、セーフティーゾーンを作り経験を積むのか事前に十分な検討をしてもらいたい。

私は、今でもスマホの地図アプリを離さない。純粹に自分の頭の中の地図イメージとスマホの地図アプリが一致するのが楽しい。また、違っていたら何が原因だろう？と考える。これだけでもかなりの練習になっているのではないだろうか？